

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

- 1 二ヶ領用水の支流の暗渠→開渠：全ての開渠化は難しいが、出来る箇所を開渠として「水の蒸発→気化熱を奪う」のサイクルで温暖化防止に資する。
「まち協の歩きたくなる高津」にも描かれたが、景観の観点でしか捉えておらず、温暖化防止の観点を付加させる企画。
- 2 二ヶ領用水沿いのフェンスに「ツタ」を這わせることにし、グリーンカーテン同様の成果を生み出す。
- 3 高津区内の二ヶ領用水にある「堰」の高さを増し、バブリングを多くして、一イオンの発生を高める。
- 4 毎週3日間は、二ヶ領用水の増水量を実現し、温暖化防止に資する。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

- 1 「町の駅」「川の駅」に習い、二ヶ領用水の中央部にある円筒分水～平成橋の二ヶ領用水ゾーンを「二ヶ領用水の駅」と名づけ、親水性を高める。
- 2 高津区発信の「二ヶ領用水の日、打ち水作戦」の展開→市内全体へ拡大。
- 3 円筒分水周辺の整備計画にあわせた、周辺緑化計画。
- 4 炭素繊維を二ヶ領用水に敷設して、浄化活動を推進する。

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

- 1 高津区ならではの特色を発揮できる計画を取り入れ、早期実現して、他地域への指針としたい。
- 2 実現可能で区民が納得参加しやすい計画が望まれる。区民をも巻き込んだ内容を期待する。

氏名 _____

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

温暖化防止策に貢献できる二ヶ領用水をはじめとした水路の整備と活用方法の検討
太陽光発電（個人、市民共同、集合住宅、公共施設、等）推進のための施策検討
温暖化防止に役立つさまざまな光触媒技術の導入推進策の検討

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

省エネ診断の推進、拡大
太陽光、太陽熱利用の促進
多摩川の水力エネルギー利用の検討
壁面緑化、屋上緑化
農地保全、市民農園制度推進
廃食油回収、バイオ燃料、BDFプラント
環境教育プログラムの充実
電気自動車普及
路面電車(LRT)
保水性タイル、雨水利用（防災、水の有効活用、打ち水効果、等）
小河川のビオトープ化

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

規模の小さな緑地でも保全出来る仕組みが必要
現在の市民農園制度の枠を超えた農地利用方法を可能にすべき
多くの先行事例や、高津区にあるすばらしい企業、KSP等、環境に貢献できる様々な技術をもつと勉強して活用できる方法を検討していくべき
自然共生型都市再生とか循環型社会形成を高津区だけで実現していくのは難しい現状をもっと認識すべきであり、他地域との連携、協働事業等の可能性を探っていく必要がある

ご氏名 _____

①「ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

<緑を育てる>

①家庭・地域での雨水利用

小規模貯留槽・路地尊の設置（路地尊 墨田区で行っている雨水利用システム）

草花への水やり・路地への水まきなど緑を増やす手助けとなる（路地尊 別紙添付）

②マンションに併設する公園の緑化

緑の大切さや日蔭の確保など快適に過ごせる環境作りのお手伝い。

ただあるものから地域の共有財産へ

③食育

規格外で大量に破棄される野菜に注目して、規格外でもおいしい野菜の普及

家庭・学校など手軽に作れる野菜の紹介・育てるアドバイス。

②「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

①多摩川河川敷の利用について

二子橋下の河川敷は駐車場設置に伴いバーベキューをする人が絶えない。

川を汚しゴミを残していくので利用ルールを作りたい。（禁止も考慮に入れて）

②透水性・保水性インターロッキングブロックの導入

本ブロックは水分がブロックを通過するのに十分な大きさの空隙と、水分を保持することができる微細な空隙を持っており、透水性・保水性両方の機能を持っています。

従来の透水性インターロッキングブロックと同じように、路面に降った雨は路盤へと浸透します。そのため、水たまりができにくく、歩きやすい歩行空間が形成されます。（透水性）

また、雨が降りブロック内に溜まった雨水が太陽により熱せられ蒸発する際には、路面の熱を奪います。（保水性） 川崎市建設局 道路より抜粋

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

なし

ご氏名 _____

路地尊

(1) 路地尊とは

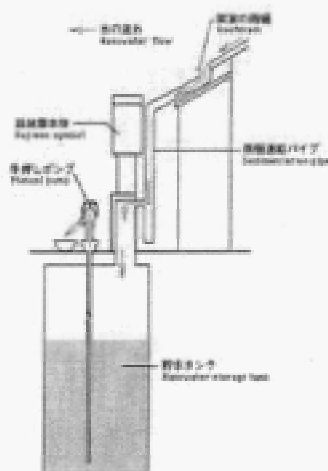


路地尊とは、路地の安全を守るシンボルです。名前の由来は「地域のコミュニティの場であり、災害時には避難路になる路地を大切にしながら自分たちの手でまちを守ろう」という防災まちづくりの考え方から、その名が付けられました。

当初は、防災用具等を収納するストリートファニチュアとして考案されましたが、第2号基から雨水利用が導入され、草花への水やりや子供の水遊びの場として、また災害時の水源として地域で活用されています。

写真：災害時にも使えるよう、手押しポンプで水をくみ上げます。

(2) 路地尊の雨水利用システム



路地尊は、近隣の住宅の屋根に降った雨を集水して、地下のタンクに貯めています。

雨水には消毒用の塩素が入っていないので、野菜や草花を育てる水として、また金魚等の飼育用にも役立っています。

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

ごみの3分の1（重量）をしめる生ごみを、「ごみ連生ごみ堆肥化ルート方式」を参考にして、現在居住しているマンション（約1100世帯）と高津区の農家の連携で資源循環させたいと考えている。具体的には、乾燥式生ごみ処理機を使って生ごみを乾燥して、高津区内の農家で堆肥化して農作に使う、できた作物を購入するという方法。自宅でポリバケツ&ダンボールを使った堆肥化を成功させているので機械を使う必要はないが、自分ができなければ理解、協力してもらえないので、処理機を購入して実験開始することにした。自治会、管理組合の理解力の問題もあるが、まずは、住民に生ごみリサイクルの必要性を理解してもらい協力を得ることが課題である。10月の秋祭りで効果的PRすることを当面の目標にして準備をしている。大多数の住民と農家の連携までにたどり着くのは至難の業で、歩みはかなり鈍い。その前に、小人数で、園芸の会に協力して貰って花壇の土づくりに活かすことも考えている。あるいは市民の森とかも。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

個人が仕組みを作ることは大変難しい。かえるプロジェクトのように、仕組みができたものを高津区で発展させることも一つの方法かと思う。生ごみであれば、まず、区役所の食堂など公共施設からでる生ごみを循環させる仕組みをつくり、その事例の情報を区民に提供することは効果的で説得力がある。市役所の食堂の生ごみ、あるいは、学校給食の生ごみは循環させているだろうか。落ち葉の堆肥化は簡単なのでやってほしい。

ちなみに、廃食油の回収については、パークシティ溝の口としての取り組みの目途がたったので10月から開始予定である。水を汚さない、下水管を汚さない、ことにつながる。

<http://www.city.kawasaki.jp/53/53kankyo/home/kankyo/tumarase.htm>

http://www.city.kawasaki.jp/30/30sidou/home/kougaitop/hatitoken/dekirukoto_katei.html

多摩川、二ヶ領用水の水質にも関心があるが、調べていないので何もわからない。

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

下記、議事録を青で修正しました。

・一市民、主婦の目線からすると、理念は立派過ぎるように感じる。川崎・ごみ連の私たちが考えていることはできることは一赤トル生ごみリサイクルであり、橘の農とつなげたい。基本目標のⅠ・Ⅱ・Ⅲのどれにもつながるので、横断的な活動展開ができる方針としてほしい。

ご氏名 _____

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

1、高津区の緑の<絵図>または<鳥目図>を作成すること。今後おそらく緑の情報を記号や色分けして地図に落としたものがベースとして作成されると思いますが、それを一旦絵画として描きなおい、空中から俯瞰するような誰にでもわかる絵として表現するものです。

私は、世田谷区の大山街道を表した鳥目図をこれに似たコンセプトで作成したことがあります。小さな整合性を捨て、大きなつかみで、緑の崖線や、流域や、田畑や森や公園の緑を表現し、これを区民に配布します。

2、高津区発行のパンフのレターヘッドに、あれ、こればなんだろう？と思わせるような、断面線、あるいは崖線、をデザインして使用します。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

1、何らかの形で、新たに「緑の街づくり宣言」を行うことを前提とし、さまざまなアクションプランを組み立てること。直接的に緑やその維持管理にかかわるものだけでなく、広く都市づくりにかかわるものや、子供の育成環境にもかかわる宣言というイメージです。

2、徒歩や自転車による移動の利便性や快適性を高める街づくりを推奨すること。歩道の拡幅や延長、自転車保管場所の確保、循環バスの路線拡大などが含まれます。現在は、人が車の間を縫って歩かなければならないところがまだまだ多い高津区です。また、道に名前をつけ、道しるべ、ベンチ、などを置きます。CO2削減に関しては理念の部分で十分と思います。

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

前回会議中に、緑地保全施策について疑問を感じた、と私は発言しましたが、言葉足らずでした。私の意図は、行政施策への疑問ではなく、この会議の中で「都市の緑は共有財産である」という意味の<推進会議宣言>ができないかと思っただけの発言です。

今日、都市における緑地は、間違いなく都市の魅力のひとつであり、価値あるものとして広く認識されているものと思います。これに「緑の使用権」が認められれば、（これについてはきちんとした研究を行う必要があると思いますが）、何らかの対価の下に、買取を行うことで、緑地保全を図ることができないのでしょうか。

仮に市が「緑の使用権」を買い取ることができれば、その使用権の範囲で、一定の緑が保全されます。さらに、転売、開発されたとしても、保全されます。土地活用の自由を拘束するものでないとなれば、街づくりについて土地活用における創意工夫の土壌を育成することにもなるのではないかと思います。

推進会議は、行政施策の限界を超えたアイデアをもって、強い影響力を発揮する可能性があるかもしれません。緑はみんなのものだ、という漠然とした気持ちからの私の発言でしたが、学識者の先生方に期待します。

ご氏名 _____

1. 前回の会議で「脱自動車」の文言についてご指摘がありました。これは第一回での私の提案を事務局で反映していただいた部分だと思っておりますので、私から返答いたします。ご発言の主旨としては、自動車が引き起こしている諸問題そのものを否定されたものではなく、表現が漠然としていることを指摘されたのだと理解していますが、事実を改めて確認するためにも、温室効果ガス排出量抑制に資する取り組みの効果を比較したグラフを添付しますので、ご覧ください。

（出典は神奈川県資料、東京工業大学藤井研究室調査）

また、高津区は自動車による大気汚染が全国でも最悪水準であること（添付グラフ2枚目、出典は国・川崎市調査）や「川崎市環境基本条例」でも自動車公害や地球温暖化の防止に取り組む努力義務規定があるなど、市の環境施策として自動車対策に取り組むことの必要性は明らかです。

とはいえ、実際問題としては、私たちで主体的に取り組める対象は自家用乗用車ですから、取り組みの対象をより明確に示すため、たとえば「脱マイカー」といった表現にしたら分かりやすいです。具体的には、川崎市は公共交通が比較的便利であり、今でも「できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動するようにしている」市民が半数近くにのぼる（平成19年度第1回かわさき市民アンケート）といった特長がありますから、こうした取り組みをしている区民を応援しつつ、この特長を高津区全体でさらに伸ばしてゆくための広報活動や施策（たとえば交通不便地域の調査・解消など）に取り組むことを提案します。

2. 「神奈川県地球温暖化対策推進条例」検討委員会による最終案では、私たち県民の努力義務規定なども盛り込まれ、分かりやすい表現でまとめられていると思います。先に、県の施策を考慮する必要はないというお話しがありましたが、少なくとも今すでにこういう案が出ており、近々条例化される見込みであるという事実を把握しておくことが無意味とは思えません。委員の皆さんには見ていただくことが可能なようお配りしたら良いと思います、提案します。

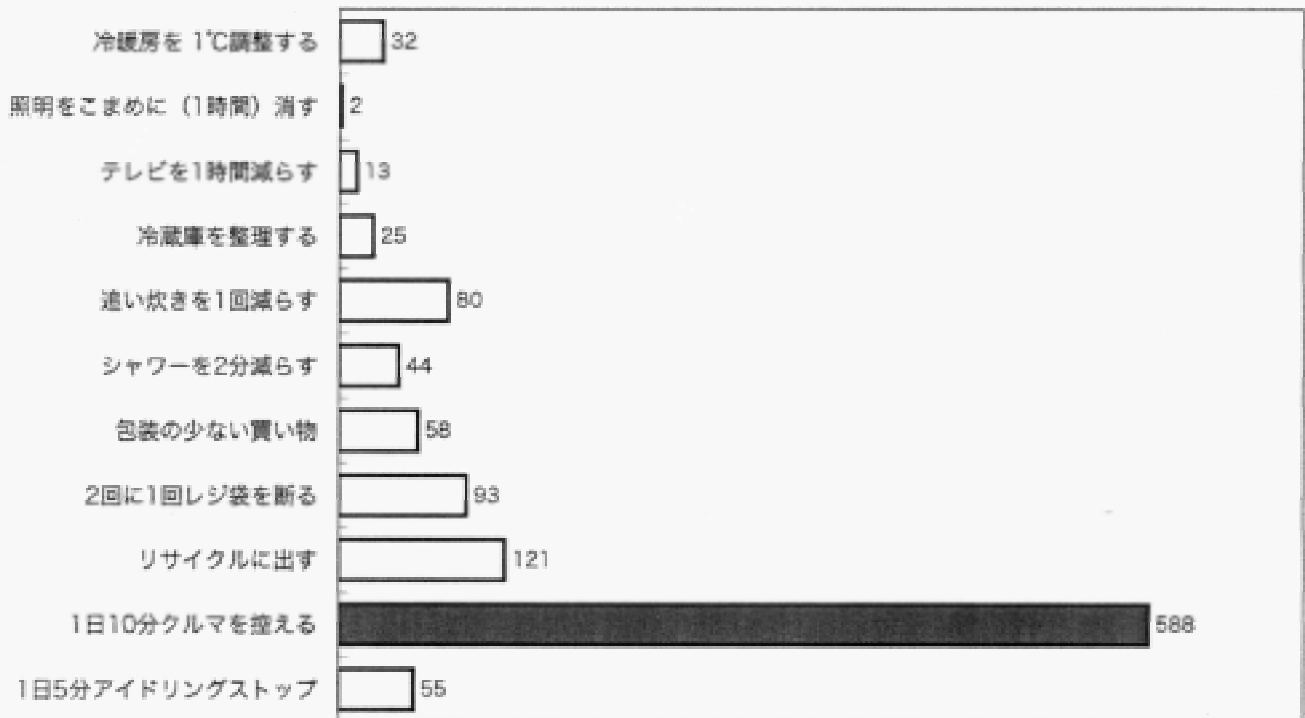
3. 初回に「今は地球温暖化問題への取り組みに反対する人はいない」といった意見がありましたが、そう思うのは早計かもしれません。事実、書店店頭には「環境問題のウソ」などと題した本が少なからず並んでいるし、各界に影響力の強い日本経団連会長も「犯人は本当にCO2なのか」と公言しているほどです（東京新聞7月27日）。少なくとも危機感はまだ共有されていないと考えられます。もうひとつ例を挙げると、私は日頃より交通問題に取り組んでいる関係で交通分野の調査をよく見っていますが、その中ではたとえば、日頃の交通手段に「マイカー」を選ぶ人は環境意識が低めであることを示唆する結果が出ている、大人ほど生活習慣を変えることが難しいといった指摘もあります（ネットエイジアリサーチ自動車に関する調査②「自動車購入時、「環境への配慮」を最も重視するのは全体の1.4%」、ほかカーフリーデー・ジャパン調査など。なお「選ぶ」としているのは、選択の余地が限られる地域を除外して考えているため）。各種調査結果を見ても、若年層については環境意識が高まっているものの、年齢層が高くなるほど意識が低下する傾向が見えてきます。もちろん当推進会議に出席されるような方々は例外だと思っておりますが、全般の傾向を客観的に見れば、大人にこそ問題意識を持ってもらうための取り組みが必要だと考えられます。

そこで、たとえば話題提供として地球温暖化問題を危機と認識してもらうための映像作品を見ていただくなど、大人向けに分かりやすい表現で、改めて環境意識を高めてもらえるような広報活動を検討してはいかがでしょうか。

ご氏名 _____

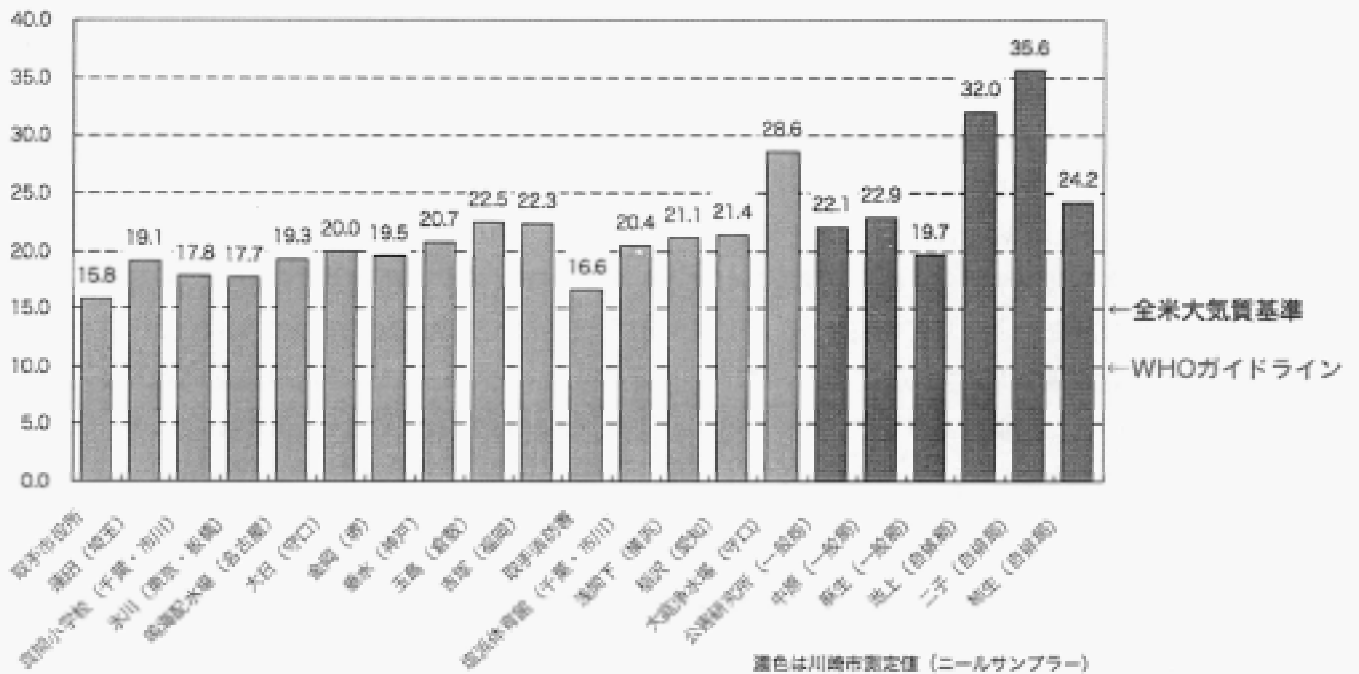
エコ活動による年間のCO2削減量

CO2削減量 kgCO2/世帯・年



濃度 (μg/m3)

PM2.5濃度比較 年平均値・平成18(2006)年度



① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

1. "緑"を保全し、増やす運動
 - ① 緑のカーテン...今年オーサ、継続と拡大、普及宣伝の工夫。
 - ② ビルの壁面緑化運動...まず 公共の建物、商業ビル
 - ③ ビル屋上の緑化... 同上。
2. 雨水利用の促進
 - ① 各家庭・マンションなどで 雨水貯蔵タンク(天日桶)の設置
 - ② 学校など公共の建物で 雨水利用のシステム作り。
3. 省エネ診断...電力消費の大きいビル、公共施設の省エネ診断。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

1. 浸透性舗装材を使った道路建設
(限水性 ")
2. 雨水利用とリンクした水打(散水)運動の宣伝・普及活動
3. 太陽光発電装置の導入普及...
(市の) 平日は発電が活動と連携し
4. 廃棄物の3R活動の推進...高津区以上の積極的な取組み。
例えば 集団資源回収運動キャンペーン
5. 放置自転車の再活用方法のシステム作り。

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

(This section is currently blank in the image)

ご氏名 _____

健康の森ボランティアとして、仲間の皆さんと、どんぐり、草花を種から育て出来る限り自然のままの公園を子供達に残してあげたい、自分達に出来るエコシティたかつの役割り、とおもっています。

もし少しでもできましたら街のプランターに花の種から育てて見たいです。

7月に平塚の七夕に行ったおり、七夕のプランターにマリーゴールドの芽がしっかり芽吹いていました、自分の周りではすでに、花さかり、花の咲いたポット苗 [ビニールハウス] 石油を、使わない自然のまま、咲かせられたらエコにつながるとおもっています。

ご氏名 _____

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

高津区は、区域のほぼ中心部を北西から南東に縦断している多摩川崖線軸を境に西側の丘陵地と東側の平坦地を形成している川崎市の地理的分岐点です。この地理的状況に対応した環境的配慮が必要かと思えます。

また、今年3月に策定された「川崎市緑の基本計画」では、第3章 緑の基本計画 6 基本方針 2 「地球環境に配慮したみどり軸の保全と創出」で〔多摩川崖線軸〕●多摩川崖線軸の骨格を形成する樹林地の保全 ●軸をつなげる緑化の推進 ●市民との協働による緑地管理の推進が記述されています。

以上のことから丘陵地について、この「多摩川崖線軸の骨格を形成する樹林地の保全」と「軸をつなげる緑化の推進」の具体化をどうするか、高津区まちづくり協議会の「高津の水と緑・プロジェクト」で進めている斜面緑地カルテに基づく現況調査とともに、樹林地の保全と軸をつなげる緑化の推進について景観も含め、残したい緑など市民サイドからの視点で進めて見たい。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

主に平坦地を対象に、

- 1 300m²以上の緑地を対象に都市緑地法による「市民緑地制度」を活用した保全緑地の市民利用の推進。
- 2 緑化の啓発（1戸1樹運動のようなことは・・・）

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

マンション建設に伴う提供公園の在り方や完成後の整備・育成等の管理運営などに関するルールづくりを…

氏名 _____

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

・水と緑の活動団体ネットワーク「里山楽校」の定期的開催…「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」をはじめ「高津区健康の森」など区内の緑地活動団体5団体と多摩川と二ヶ領用水で活動する団体を誘って、活動予定を共有できる広報の発行と相互交流の場づくりを目指したい。

・使用済みてんぷら油の回収によってできた環境資源への関心を、次世代エネルギーの夢につなげられるように、天ぷら油を原料にしたバイオ・ディーゼル燃料使用によるコミュニティバスの走行実験に取り組む。たとえば、梶ヶ谷商店会振興会と連携し集めた油をBDF製造プラント（exレポインターナショナル＝京都のBDFを製造の事業社東京支所）に送って製油し、梶ヶ谷駅～市民プラザ～梶ヶ谷第1公園～虎の門病院～梶ヶ谷駅のコース、を検討してみる。自由が丘のサクスナーチャープスの方式（貸切バス月1回）などの導入で考えてみたい。

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

・区民会議の防災対策とタイアップして、地形から見た高津区の斜面緑地対策を検討してほしい。今年も、豪雨によるがけ崩れは何箇所か発生しているので、急を要すると思う。たとえば、末長熊野森緑地の入口散策路は、毎年崩れているが、せつかく雑木林を再生させるべく緑地活動をして、マンション管理の都合から伐採されてしまう。これは、いかにもさびしい。このような例は他の緑地にもあるのではないか。

・温暖化防止対策としては有効な手立てはないのかもしれないが、市民意識としてもっと地球温暖化の現状報告とシミュレーションを知るべきと思う。NPO 気候ネットワークなどが行っている体験型セミナーの開催を検討してほしい。

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

・ゴーヤの次には「菜の花の里親プロジェクト」を推進していることを報告したかった。以下、京都と鴨川の例。レポインターナショナル、ホームページから引用。

（2007.3.9 京都『菜の花「夢」プロジェクト』を実施 3月4日京都市役所前開催のフリーマーケットに『菜の花「夢」プロジェクト』で市民が育てた菜の花のプランター約150個を展示し、フリーマーケット参加者にご鑑賞いただきました。

※『菜の花「夢」プロジェクト』とは…回収を行っている「京都市ごみ減量推進会議」の協力を得て菜の花を栽培し、「樹なかの菜の花畑」づくりを目指した取組みです。プランターには市民のメッセージを記したステッカーを貼り、全市に向けて環境へのメッセージを発信しています。）



京都での菜の花プランター

以下、鴨川の例

(08. 4.5・6『菜の花「夢」プロジェクト』で栽培した菜の花を「第8回鴨川さくらまつり(鴨川河川敷三条～四条間)」にて展示

※『菜の花「夢」プロジェクト』とは...

市民が「菜の花の里親」として菜の花を栽培し「菜の花を育て種子から油がとれる→家庭で油を調理する→家庭から出る使用済み天ぷら油を市民回収へ→バイオディーゼル燃料にリサイクル」というモデルによって、使用済み天ぷら油回収・リサイクル事業を市民にPRする活動です。)



鴨川での菜の花プランター

氏名

① ご自身が主体となって、「エコシティたかつ」のアクションプランでやりたいこと

—

② 「エコシティたかつ」のアクションプランに取り入れたら良いと思うこと

次世代を担うお子様も含め多くの方々が参加出来、実感、評価出来、また生活環境保全や情報共有等区民の利便性も併せた具体的施策を列記してみました。

1. 自然エネルギーの活路創出

- 1) 区内河川（二ヶ領用水・平瀬川・矢上川等）の流れを利用した発電エネルギー
- 2) 下水道の流れ、臭気ガス回収利用したエネルギー
⇒周辺遊歩道の夜間照明（防犯等照明等）に供給
- 2) 高層ビル屋上での風力発電の促進と活用PR（現在風力発電・・・kwh・・・）
- 3) 雨水を活用した打ち水エリアの設定（地域限定となるが・・・）
- 4) 一定以上のエネルギーを消費する企業への自然エネルギー使用の義務化（全消費電力の・・・%は自然エネルギーの使用義務化・・・助成制度が必要）

2. 生活環境（迷惑行為の排除等）保全と併せた環境改善施策

- 1) 車両等の無闇な空ぶかし車両の取り締まり条例化（倫理改善と環境保護の相乗効果を期待）
検挙者に対し、警察の方に空ぶかしに対する環境影響についても教育してもらおうとか・・・
- 2) 無秩序な環境破壊行為の抑制（環境保全との環境保護の相乗効果を期待）
多摩川二子河川敷での花火の持ち込み、バーベキュー禁止及びごみの持ち帰り条例化
例えばバーベキュー広場を整備し、セットの貸し出し、食材の販売、ゴミの分別をやってみる・・・片付けが面倒だから放置する、無秩序になるをなくす
- 3) 企業向け安全運転講習会等に環境側面教育を含める
- 4) 免許証更新教育に環境側面教育を含める（環境に配慮した自動車の運用）

3. 共有化や情報発信、優遇制度を活用した街づくり

- 1) カーシェアリングの促進（レンタカー会社とタイアップし促進する）
- 2) 遊休地、河川敷等をファミリー農場として解放し（期間登録制）その中で街路樹の剪定で発生した廃棄物等を堆肥化、提供し循環サイクルの一旦を体験してもらおうと同時に緑化面積確保も併行実施
- 3) 区内ミニFM局を設置。区内の寄せられた情報を発信するとともに道路渋滞情報、駐車場空車情報を発信、混んでる場合は自家用車利用から公共交通機関利用、徒歩、自転車の利用を促す（区民の情報交換、共有ツールになれば、事件の捜査情報にも利用できる）
- 4) 区内施設で公共交通機関、自転車等で来場した方々への利用料割引、ポイント等の環境優遇制度の創設（夏休み期間に限定）
- 5) 区内（市内）の公共交通機関団体に公共交通利用の優位性のPRを依頼
- 6) 区内の自転車販売店に自転車の環境面での優位性（但し駐輪モラル、安全も包含する）のPRを依頼（不公平になるかもしれないが販売店の販売促進に繋がるか）

4. 次世代（お子様）も参画できる区民環境活動の施策

- 1) 区民環境コンテストの募集と表彰（区民祭で表彰する）
- 2) ローエミッションファミリー登録制度（市政新聞の高津区の部分で紹介・・・）

一定の環境タスクを満たした世帯への登録制度（優遇措置等を検討）

3) 区内小学生・中学生環境弁論大会

4) 区内、市内の環境に関する施設見学会並びにNGO法人活動の体験会

③ 第2回推進会議で、言い足りなかったこと

—

（その他） における環境に配慮した取り組み

環境基本方針、行動基準を定め、以下の取り組みを行っています

- ・ エネルギー使用量削減や、廃棄物の再資源化とリサイクルへの取り組み
- ・ 事務用品類のグリーン購入へ取り組み（2006年度本社購入比率 91.2%）
- ・ 包装材への取り組み 等

氏名 _____

